

第6期上下水道事業経営委員会（第1回）の主な質疑

令和6年8月2日（金）9時30分～11時00分
上下水道局2階201会議室

質 疑	答 弁		
【令和5年度決算について】			
A 委員	<p>水道事業の給水区域内人口と下水道事業の行政区域内人口では数値に差がある理由について教えていただきたい。</p>	上下 水道局	<p>水道事業については、高岡市との隣接市に対して給水しているケースあるいは隣接市より給水を受けているケースがある。その差し引きにより給水区域内人口と行政区域内人口に差が生じている。</p>
	<p>事業者はインボイス及び電子帳簿保存法により請求書等をデータで保存しなければならないこととなっているが、対応状況はどうなっているか。 また、高岡市はインボイスが分かりにくい ため分かりやすくした方がよい。</p>	上下 水道局	<p>インボイスについては、令和5年10月の制度開始時より登録番号の登録を含め対応済である。 電子帳簿についても水道料金システムにおいて保存し、対応済である。</p>
		上下 水道局	<p>現在、水道料金システムの更新作業を始めており、その中で利用者面の分かりやすさも検討していく。</p>
B 委員	<p>水道料金システム更新について、どのような業者選定方法を検討しているのか。</p>	上下 水道局	<p>プロポーザル方式にて検討している。</p>
	<p>システムについては、業者が決まると業者に頼り切りになってしまい、結果として住民サービスに影響がでることがある。 業者の選定により住民サービスの質が低下する事態にならないためにも、業者選定は非常に重要であり、システムの使いやすさや業務継続性の視点を持った選定を行っていただきたい。</p>	上下 水道局	<p>デジタル分野全般に共通するが、データの規格がシステム業者ごとに不統一であることから業者の固定化が発生してしまっている。国の方向性としては、データの規格を統一しようとしており、上下水道局としてもそのような方向性のもと、システム構築に取り組んでまいりたい。</p>
C 委員	<p>料金徴収業務を委託されている中で、震災の影響により料金の回収が困難になっているケースがあるか教えていただきたい。</p>	上下 水道局	<p>震災による料金徴収への影響については、地震により被害を受け罹災証明書を取得された方に対し基本料金の減免、漏水により多量の水を使用した方への水量の減免を行っている。 その他、料金の回収面での問題は特に発生していない。</p>

	G Xの取り組みについて、今後カーボンニュートラルを進めていくうえでの方針を教えてください。	上下水道局	<p>1点目として、下水道施設は多量の電気を消費するのだが、それらを高効率な機器へ更新することを検討している。例えば、曝気装置(汚泥に空気を送り込む装置)を送風量を抑制できる機器に更新するなど。</p> <p>2点目として、下水道の汚泥や下水道から発生する熱などのエネルギーの活用について検討したいと考えている。</p>
D 委員	スマートメーターについて、新設のものから対応していくのか、既設のものも更新時期が来たら対応していくのか。今後の導入の優先順位について教えてください。	上下水道局	令和5年度には、山間部である沢川地区にスマートメーターを新規導入した。これは、山間部であり行きづらい点や積雪が多い地域である点から導入したものである。
		上下水道局	<p>まずは、行くのに時間がかかるような難検針地域から導入した。</p> <p>この後は、入ることが難しい工場やアパート関係などの上下水道局の業務を効率化できる部分から着手していきたい。</p> <p>また、スマートメーターにより取得したデータは市役所の他部署と連携しながら活用方法を検討する必要があると考えている。</p> <p>しかし、現在はまだ導入コストが高いため、使い方に合わせた導入検討を行っていく。</p>
B 委員	スマートメーターの機能の提供区分は、どのようなになっているのか。	上下水道局	<p>水道メーターは公設、つまりは、上下水道局のものを利用し、通信回線は通信事業者のものを利用している。</p> <p>水道スマートメーターの活用方法としては、例えば、漏水の疑いがある場合等にはデータを取得し分析をすることが可能となる。また、一定のエリアにおける給水量と使用量を比較することで不明水を把握するなど業務効率につながる可能性は高い。</p>

【水道管路における耐震化の推進について】			
E 委員	耐震化の前倒しについて、もう少し早く進めることはできないか。	上下 水道局	今回の震災を受け、国においても大幅な補助制度を設けるとのことだが、現行ではいくつかのクリアすべき課題がある。現在は、国からの制度の打ち出しを待っている状態である。今後は、国の補助制度を最大限活用しながら進めていく。
	災害時における地下水の活用についてご検討いただきたい。	上下 水道局	災害用井戸等の活用については、今後市全体の防災対策の中で検討していくこととなる。災害対策の部署と上下水道局は、常に連携しながらインフラ整備を行っていく。
C 委員	伏木地区の復旧状況について、現在は仮復旧の状態か。それとも本復旧までできているのか。	上下 水道局	伏木地区の一部においては、仮設配管による仮復旧で終わった箇所がある。そのような箇所を本復旧するための工事も発注しており、今月から施工開始するものもある。それらの工事が完了すれば、本復旧も完了である。
		上下 水道局	水道に関しては、上下水道局が管理している水道メーターまでの復旧状況である。お客様の管理となる宅内配管については、まだまだ不自由な部分があるのが現状であると感じている。 また、工事で多いのは下水道である。下水道管の修復については、開削の必要があり、今後本格的に実施していくこととなる。 上下水道、道路、電力、公費解体はセットでの復旧作業となってくるため、事業者間でも連携を取りながら進めていく。
	伏木地区の耐震化率は84.8%と高い水準であったとのことだが、計画段階にてたまたま耐震化率が高かったとの認識でよいか。	上下 水道局	伏木地区は元々古い管路が入っていた地域であり、一斉更新を迎えた時期と耐震管が採用された時期とが重なったことで広いエリアで一気に耐震化が進んだ経緯がある。
B 委員	今後、一般的には人口が減少していくなかで、効率的な事業運営や計画性をもって耐震化等を進めていただきたい。	上下 水道局	将来の人口需要や開発需要を見込みながら歳出を検討していく。例えば、人口が減少傾向であれば管を細くするダウンサイジングを行い、大きな開発需要があれば管を大きくするという意識しながら進めていく。
E 委員	今回の震災では、伏木等の地域で大きな被害があったが、高岡市の他の地域で液状化しやすい地域はあるのか。	上下 水道局	今回の震災における罹災証明の発行状況を地図にプロットすると、影響の大きかった地域が見えてくる。実際に液状化するかどうかは様々な調査が必要となるが、例えば、昔からの地形がどうであったかということは震災被害にも影響していると感じている。

B 委員	<p>災害対応においては、地元地域に熟知している地元業者でなければ現場状況が分からずに工事などの対応ができないケースがある。そのため、日頃から業者との協力体制を構築し、人材の育成を行わなければ非常時に対応できないこととなる。</p> <p>また、県内市町村間の広域的な協力体制も非常に重要である。</p> <p>今後は、市内部、他市町村、業者及びその他関係機関との協力体制を密にしていきたい。</p>	上下 水道局	<p>上下水道には全国組織があり、災害の段階に応じて県内・中部・全国といった応援体制が構築されている。</p> <p>本市としても東日本大震災や静岡の水害等に職員を派遣している。この時の災害対応の経験により、応援の受け入れ態勢を迅速に構築でき、災害時の初動対応を早く行えたと感じている。</p>
F 委員	<p>今回の震災により、いざという時の備えの重要性を感じている。例えば、災害時には身近なものをこういったことに代用できるといった手法をお知らせいただければいいと感じた。</p>	上下 水道局	<p>今回の震災により、災害の状況をうまく広報していくこと、また、緊急時における代用手段等を身につけていただくことが非常に重要であると感じている。</p>
C 委員	<p>高岡市の給水車の保有状況は。</p>	上下 水道局	<p>加圧式給水車を計3台保有している。(市保有2台、受託業者保有1台)</p> <p>以前は給水所に給水車を設置し給水を行っていたが、現在は給水所に給水タンクを設置することで加圧式給水車は水の運搬のみを行うことが可能となった。</p>
G 委員	<p>下水道の被災状況、対策及び今後の耐震化について教えていただきたい。</p>	上下 水道局	<p>下水道については発災以降、下水管に砂が溜まった状況が確認されていたため、マンホールの中を確認し、土砂が溜まっていた場合はすぐに取り除いている。その後、土砂が溜まっていた箇所や水が滞水している箇所について、管に異常がないかをカメラ調査している。</p> <p>カメラ調査の結果、クラックが入った状態や波打っている状態の管が当初7km程確認された。</p> <p>そのような下水管の本復旧工事を秋頃より開始する予定である。</p>